

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	21-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Physiologically decreased F-18 fluorodeoxyglucose uptake in the lower vertebrae associated with daily drinking habit in Japanese men with alcohol flushing reaction アルコールフラッシング反応を有する日本人男性において、下椎における F-18 フルオロデオキシグルコース取り込みの生理的な低下は飲酒習慣と関連する		
<b>執筆者</b>		
Okuyama C, Higashi T, Ishizu K, Takahashi M, Kusano K, Kagawa S, Saga T, Yamauchi H.		
<b>掲載誌</b>		
Alchol 2021;95:15-23. doi:10.1016/j.alcohol.2021.03.003		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコールフラッシング反応、F-18 FDG、日本人、椎骨		33711409
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>アルコールフラッシング反応（AFR）は食道扁平上皮癌のリスクの一つであることが明らかとなっているが、画像評価との関連は明らかでない。本研究は、脊椎骨における F-18 フルオロデオキシグルコース（FDG）取り込みパターンと、飲酒習慣や AFR との関連を検討することを目的とする。</p> <p><b>方法：</b>悪性腫瘍または炎症性疾患の評価のために、FDG 陽電子放射型コンピュータ断層撮影（PET）を受けた日本人男性 192 名（69.1±10.3 歳）を対象に飲酒習慣と AFR を質問紙で調査した。胸部と腰部の FDG の取り込みにより、Ld：腰部優位、TL：両領域でほぼ等しい、BL：胸部でやや高い、Td：胸部で優位の 4 つに分類した。飲酒習慣（毎日飲む/飲まない）、AFR（あり/なし）およびこれらの組み合わせによる FDG 取り込みパターンをカイ二乗検定により比較した。また、FDG 取り込みパターンによる赤血球数（RBC）、アルブミン等の血液検査結果の比較には ANOVA または Kruskal-Wallis 検定を用いた。以上の分析により有意（<math>p &lt; 0.05</math>）であった変数と FDG 取り込みパターンとの関連について、多変量ロジスティック回帰分析を用い検討した。</p> <p><b>結果：</b>192 名のうち AFR あり 95 名、なし 97 名であり、FDG 取り込みが Ld、TL、BL、Td の者はそれぞれ 0 名、109 名、31 名、52 名であった。FDG 取り込みパターンは、年齢（<math>p &lt; 0.0001</math>）、飲酒習慣（<math>p = 0.0467</math>）、飲酒習慣と AFR の組合せ（<math>p = 0.0014</math>）と関連し、Td で毎日飲酒者および毎日飲酒/AFR 有の割合が多かった。RBC（<math>p = 0.0080</math>）、平均赤血球容積（MCV）（<math>p = 0.0378</math>）、総蛋白（<math>p = 0.0205</math>）、アルブミン（<math>p = 0.035</math>）は FDG 取り込みパターンと関連し、Td は TL よりも RBC とアルブミンが低く、MCV が高かった。多変量ロジスティック回帰分析では、飲酒習慣と AFR の組合せのみが FDG 取り込みパターンと有意に関連した。</p> <p><b>結論：</b>飲酒習慣および AFR により椎骨の FDG 取り込みパターンは異なり、毎日飲酒かつ AFR 有で腰椎領域での取り込みが減少していた。これらの結果より、FDG-PET スキャンの結果解釈の際は、飲酒習慣と AFR を考慮することが必要である可能性が示唆された。</p>		